# (一社)日本加速器学会
# 第3回会員集会

2026年8月27日
仙台国際センター 展示棟
A会場(展示室1)

## 式次第

1. 会長報告
2. 広報・ウェブ理事報告
3. 編集理事報告
4. 庶務理事報告
5. 行事理事報告
6. 学会活性化理事報告
7. 社会貢献理事報告
8. 会計理事報告

# 会長報告(1/6)

## 第12期 (2026-2028) 運営体制について

2025年の学会で行われた選挙結果に基づき、4月から理事会を構成。

- 田村文彦 (JAEA、会長)
- 池田仁美 (KEK、会計)
- 加藤政博 (広島大学、庶務)
- 紀井俊輝 (理研、広報)
- 想田光 (山形大学、編集)
- 原田寛之 (JAEA、行事)
- 大塚崇光 (宇都宮大学、学会活性化特別委員会担当)
- 栗木雅夫 (広島大学、社会貢献特別委員会担当 ←新設)

監事は以下の通り。

- 羽島良一 (QST)
- 仙波智行 (日立)

# 会長報告(2/6)



8-9期(羽島会長)

財政基盤の強化
学会運営の持続性の確保



10-11期(栗木会長)

一般社団法人化実現
加速器の価値を社会に伝える活動を重点的に展開
→ 加速器シンポジウム



8–11期を通じて財政・制度・社会発信の三つの基盤が着実に整えられた。

**極めて良い状態でバトンをもらいました！**

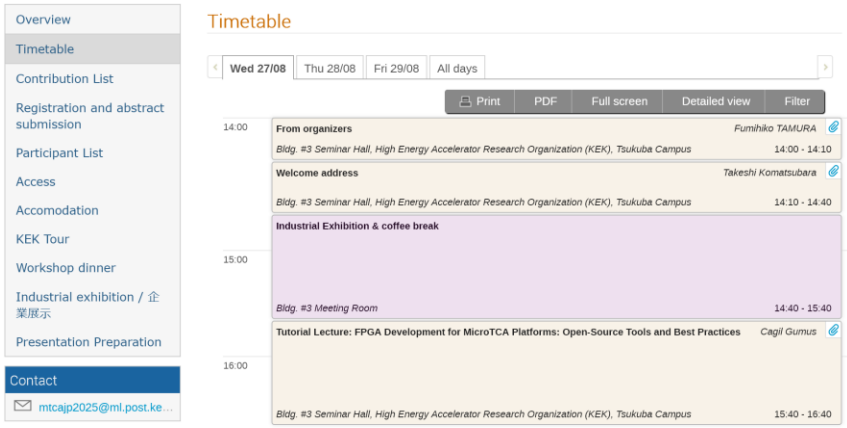
第12期は、これらの成果を確実に継承しつつ、学会の価値をさらに高めるための発展的な取り組みを進める。

# 会長報告(3/6)

## 会員の活動をITの力で支える

Indico、Mattermost（ビジネスチャット）を学会でホスト

- 研究会・WS開催支援
- 資料が学会Indicoに集約、知の集積
- 委員会活動をビジネスチャットで円滑に進める
- Mattermostは稼働、Indicoは晩秋にローンチ






# 会長報告(4/6)

## AIエージェント導入ワーキンググループの設立

加速器への機械学習導入は進んでいるが、AIエージェントはほぼ未着手。運転や装置開発への導入に向け情報交換を行う。文科省への働きかけや国際協力の構築を目指す。

- 既に41名がMattermostに参加、議論は始まったところ
- 参加希望の方は会長までメールしてください



# 会長報告(5/6)

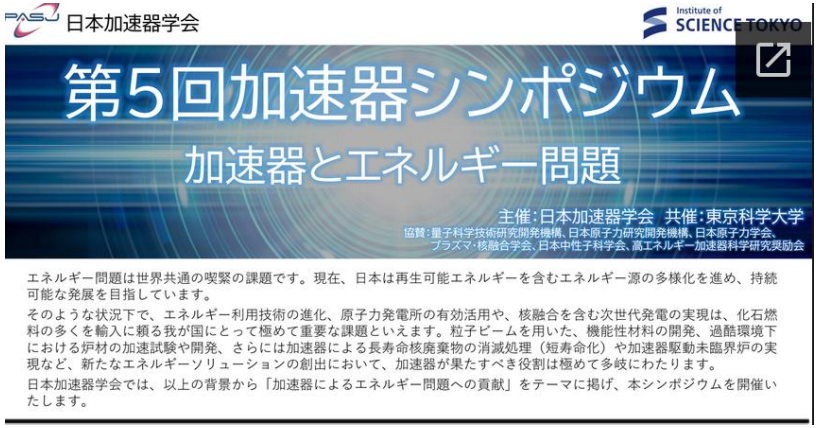
## 加速器シンポジウム

“加速器の研究を通じた社会貢献”

今後も年2回のペースでの開催を行う。みなさんご参加ください。

| 2026年 | |
|---|---|
| **第5回加速器シンポジウム 加速器とエネルギー問題** | |
| 2026.07.06(月) | 東京科学大学蔵前会館　ロイヤルブルーホール |

| 終了 | |
|---|---|
| **第4回加速器シンポジウム 技術の社会貢献：ディープテックスタートアップ** | |
| 2025.12.07(日) | 東京科学大学鈴木章夫記念講堂 |
| **第3回加速器シンポジウム 加速器で守る市民生活：環境衛生・インフラ非破壊検査** | |
| 2025.07.08(火) | 東京科学大学蔵前会館　ロイヤルブルーホール |
| **第二回加速器シンポジウム 「技術が支えるQOL: 核医学による最先端医療」** | |
| 2024.12.12(木) | 鈴木章夫記念講堂（東京科学大学、お茶の水） |
| **日本加速器学会一般社団法人化記念 第一回加速器シンポジウム ～生活と加速器～** | |
| 2024.05.27(月) | 九段会館テラス 茜の間 |



# 会長報告(6/6)

**年会プロシーディングスDOI付与検討TF**

- DOI（Digital Object Identifier）は研究者の業績管理にとって重要だが、コストや作業について検討が必要
- 広報、編集、行事理事が担当

**IPAC’28への支援**

- IPACは世界最大規模の極めて重要な国際会議。東京開催を成功させることは国内の加速器コミュニティの発展に不可欠
- 運転資金の貸付
- その他の支援も行う



# 広報ウェブ理事報告(1/2)

## 広報ウェブ委員

紀井俊輝(理研)12期広報担当理事
宮本篤(東芝)、田中俊成(日大)、佐藤政則(高エネ研)、古川和朗(高エネ研)、
菊澤信宏(原子力機構)、清道明男(JASRI)、杉村仁志(KEK)、
山本尚人(KEK)、Di Wang(KEK)、佐々木信哉(KEK)、小笠原舜斗(KEK)

## 活動内容

○通常活動(学会ウェブページの運営)
- 公募・国内外会議の情報を随時更新している。加速器施設／大学等の情報もぜひお寄せください。

○ITチームの編成(追加メンバーも募集します！)
- 加速器学会によるIndico運用を目指す。(今年度下半期より開始見込み)
  会員が加速器関連会議を運用する際に活用できるようにします。
  活用の可能性がある方は問合せください。
- 委員会運用のためのチャットシステム・ストレージシステム等の運用開始

○年会参加申込・発表登録システム・年会ホームページの運用
- 参加申込システム、発表登録システムについては国際文献社のものを使うようになった。年会ウェブページはこれまで同様学会で管理している。

# 広報ウェブ理事報告(2/2)

## 活動内容

**〇年会プロシーディングス編集作業**

年会プロシーディングス編集作業は、編集協力者を募集して行っている。最終日締切

- 編集作業説明会は開催せず、説明資料をメールで送付
- 編集者の連絡ツールとしてChatシステム Mattermostの活用を開始予定。

**〇学会誌閲覧ページの運用**

- 学会誌バックナンバーの J-STAGE 公開完了。

**〇オーラルヒストリー**

- 第1回分を公開、第2回は準備中(最終確認作業が遅れています)
- アンケートを実施し感想を求めるとともに、編纂作業への協力者を募りたい

**〇学会X(Twitter)について**

- 2018年7月から日本加速器学会のXアカウントを運用中。
- **学会アカウント @pasj_jp のフォローをお願いします。**

# 編集理事報告(1/7)

## 編集委員 (19名)

編集委員長 想田光(山形大)

編集委員

赤木智哉(QST), 伊藤正俊(東北大), 今尾浩士(理研), 魚田雅彦(KEK),
大塚崇光(宇都宮大), 帯名崇(KEK), 川瀬啓悟(QST), 紀井俊輝(理研),
近藤恭弘(JAEA), 設楽哲夫(KEK), 島田美帆(KEK), 末次祐介(KEK),
住友洋介(日本大), 出羽英紀(JASRI), 藤本將輝(名古屋大),
安田浩昌(東芝), 依田哲彦(大阪大), 涌井崇志(QST)

*2026年4月交代
五十嵐進(KEK)→魚田雅彦(KEK)
田村文彦(JAEA)→紀井俊輝(理研)※広報理事

# 編集理事報告(2/7)

## ここ1年の発行(毎年，4回発行)

第22巻3号(2025年10月末発行): 発行部数 1,060部
第22巻4号(2026年1月末発行) 特集号:「機械学習と加速器」1,050部
第23巻1号(2026年4月末発行) 1,020部
第23巻2号(2026年7月末発行) 1,060部
＊シニア会員には冊子郵送なし(Web版発行告知メールを全会員に配信)












# 編集理事報告(3/7)

## 今後の発行予定(毎年，4回発行)

第23巻3号(2026年10月末発行)　原稿締切7月末
第23巻4号(2027年1月末発行)　原稿締切10月末 特集号(予定)
第24巻1号(2027年4月末発行)　原稿締切1月末
第24巻2号(2027年7月末発行)　原稿締切4月末

## 学会誌での特集企画

*第12巻から，1月末に発行される第4号を特集号として学会誌を編成している

第12巻「広がる加速器の利用」／第13巻「広がる加速器の利用　中性子」／第14巻「国際リニアコライダー(ILC)計画と新しい科学プロジェクトのあり方」／第15巻「本格始動！SuperKEKB 加速器」／第16巻「加速器と超伝導技術」／第17巻「大強度不安定核ビーム」／第18巻「加速器とハイパワー標的技術」／第19巻「レーザー加速」／第20巻「サイクロトロン」／第21巻「J-PARC，その軌跡と未来」／第22巻「機械学習と加速器」

23巻4号では放射光加速器(NanoTerasu)をテーマとして検討中.

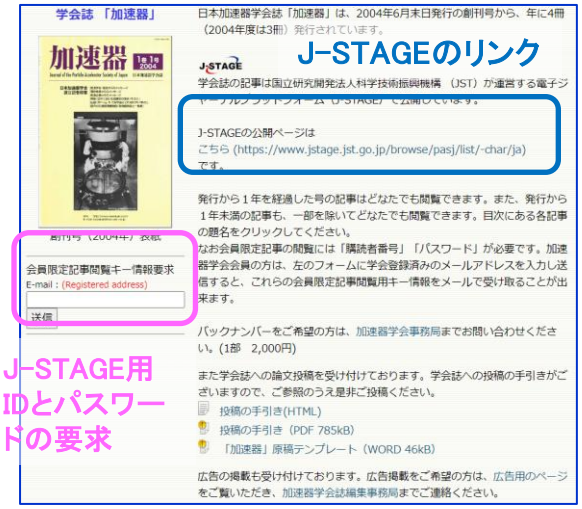
# 編集理事報告(4/7)

## ■ 学会誌「加速器」のJ-STAGEへの搭載

- 記事以外(会告や後付けなど)もJ-STAGEで閲覧可能.
- 加速器学会の「学会誌」ページの表紙一覧からJ-STAGEのページにリンク
- 発行後1年以内の即時公開以外の記事(会員限定記事)をみるためには，これまで同様，J-STAGEにログインするための購読者番号とパスワードが必要．学会WEBページにある「会員限定記事閲覧キー情報要求」(下左図参照)に登録メールアドレスを入れると送られてくる.
- 学会サーバへの新しい記事の保存は続けている．(WEBページからのリンクはない)

または

J-STAGEのページ









# 編集理事報告(5/7)

## ■ 学会誌記事(J-STAGE)のダウンロード数 （2025.06.01 – 2026.05.31）

- 学会誌バックナンバーのJ-STAGEへの搭載は2023年度に完了している.
- このダウンロード数は**J-STAGEからの**PDFダウンロード数.
- クローラーによるダウンロードは除いている.

ちなみに，最新の月間アクセス数ランキングは　https://www.jstage.jst.go.jp/browse/pasj/-char/ja　で見える.

| 順位 | (前年) | DL数 | 巻 | 号 | 分類 | タイトル | 主著者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 2252 | 20 | 1 | 談話室 | 育児休業のすすめ：ニューヨークで専業主夫になった物理学者 | 久保毅幸 |
| 2 | 2 | 1291 | 20 | 4 | 特集 | サイクロトロンの開発と応用の発展 | 福田光宏 |
| 3 | 3 | 853 | 19 | 4 | 特集 | ハイパワーレーザーの基礎 | 桐山博光 |
| 4 | 3 | 493 | 16 | 4 | 入門 | 超伝導入門 | 荻津透，他 |
| 5 | 5 | 458 | 19 | 4 | 特集 | レーザー駆動イオン加速とその応用 | 小島完興，他 |
| 6 | | 412 | 17 | 4 | 話題 | RAON, Korean Heavy Ion Accelerator Facility | M. Kwon et al. |
| 7 | | 397 | 20 | 4 | 特集 | QST量医研サイクロトロン加速器施設 | 北條悟，他 |
| 8 | | 377 | 20 | 2 | 講座 | “一度は考えてみよう” 例題で解く真空技術の基礎（1） | 齊藤 芳男，他 |
| 9 | | 365 | 20 | 4 | 特集 | J-PARC主リングのビームパワー増強 | 五十嵐進 |
| 10 | 6 | 356 | 19 | 4 | 特集 | レーザー航跡場加速の基礎とX線自由電子レーザーへの応用 | 神門正城，他 |

*( ) は前年[2024.06.01-2025.05.31]の順位

PDF総ダウンロード数　102,128
(昨年は54,968)

# 編集理事報告(6/7)

## ■ 学会誌記事(学会サーバ)のダウンロード数(2025.06.01–2026.05.31)

- 学会誌バックナンバーのJ-STAGEへの搭載を完了し，学会WEBページ上では学会サーバへのリンクは掲載していないが，学会サーバ記事へのアクセス/ダウンロードは続いている．ここでは「**参考**」として集計した．→ 古い記事のダウンロードが多い．
- IPアドレスとアクセス/ダウンロード記事が重複しているものは1件と数えた．

| 順位 | (前年) | DL数 | 巻 | 号 | 分類 | タイトル | 主著者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 2015 | 16 | 4 | 入門 | 超伝導入門 | 荻津透，他 |
| 2 | 4 | 996 | 2 | 2 | 加速器と社会 | 港湾・空港セキュリティとX線検査 | 萬代新一 |
| 3 | 2 | 874 | 8 | 4 | 解説 | 真空中の放電現象 | 小林信一 |
| 4 | 3 | 675 | 13 | 4 | 特集 | 加速器を用いた中性子源 | 鬼柳善明 |
| 5 | 8 | 493 | 9 | 3 | 話題 | EPICSを使った制御システム入門 | 中村達郎 |
| 6 | 6 | 442 | 13 | 1 | 話題 | ECRイオン源の開発―理研での結果を中心に― | 中川孝秀 |
| 7 | 9 | 404 | 13 | 4 | 特集 | 半導体の耐性試験<br>－加速器によるシングルイベント耐性の実測評価－ | 小林和淑 |
| 8 | 7 | 350 | 16 | 4 | 特集 | 実用超伝導材料開発の歴史と将来に向けての動向 | 淡路智 |
| 9 | 5 | 310 | 12 | 4 | 話題 | 加速器を用いた半導体デバイスへの放射線照射試験 | 牧野高紘 |
| 10 | | 284 | 15 | 3 | 話題 | EUVリソグラフィの現状とERLを用いた大強度EUV-FELの展望 | 河田洋 |

*( ) は前年[2024.06.01-2025.05.31]の順位

PDF総アクセス/ダウンロード数　69,772
(昨年は55,770)

# 編集理事報告(7/7)

## ■ 発表スライド アクセス/ダウンロード数 (2025.06.01 – 2026.05.31)

| 順位 | (前年) | DL数 | 年 | 講演番号 | タイトル | 主著者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4 | 1355 | 2024 | WEOP01 | 粒子線治療の現状と将来 | 岩井岳夫, 他 |
| 2 | 2 | 547 | 2023 | THOA14 | 将来リソグラフィー用EUV-FEL光源 | 中村典雄, 他 |
| 3 | 5 | 434 | 2023 | FRSP01 | サイクロトロンによる医療用RIの製造　～アルファ線放出核種(At-211, Ac-225)を中心に～ | 永津弘太郎 |
| 4 | 1 | 362 | 2014 | SSOM01 | 放射化物の管理について | 桝本和義 |
| 5 | | 337 | 2013 | MOOTL01 | 加速器における電子管技術(2) | 福田 茂樹 |

## ■ プロシーディングス アクセス/ダウンロード数(2025.06.01 – 2026.05.31)

| 順位 | (前年) | DL数 | 年 | 講演番号 | タイトル | 主著者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 672 | 2024 | WEP053 | SuperKEKB ダンピングリング 六極電磁石冷却水配管の洗浄 | 植田猛, 他 |
| 2 | | 410 | 2024 | WEP074 | DESIGN STUDY AND MODELING OF THE RF SECTION FOR AN S-BAND HIGH-EFFICIENCY MULTI-BEAM KLYSTRON | S. Wang et al. |
| 3 | | 287 | 2024 | FRP066 | ガフクロミックフィルムを用いた KEK 加速器放射線影響評価のための調査 | 田中窓香, 他 |
| 4 | 1 | 284 | 2018 | THP018 | 回転機器グリス補給周期及び振動測定の考察 | 藤来洸裕, 他 |
| 5 | | 225 | 2023 | FRP045 | 次世代重粒子線がん治療装置(量子メス)の研究開発 | 岩田佳之, 他 |

*( ) は前年[2024.06.01-2025.05.31]の順位

- 今のところ学会WEBページからのアクセス/ダウンロードのみ.
- IPアドレスとアクセス/ダウンロード記事が重複しているものは1件と数えた.

# 庶務理事報告(1/6)

## 学会で協賛・後援・共催の会議等(1/2)

| 開催期間 | 会議名称 | 対応 | 許可日 |
|---|---|---|---|
| 2025/7/2-2026/2/13 | 第6回オンライン真空講習会入門講座 | 協賛 | 2025/5/16 |
| 2025/8/26-29 | 第62回(2025年度)真空夏季大学 | 協賛 | 2025/5/16 |
| 2025/9/2-2026/2/13 | 第6回オンライン真空講習会 | 協賛 | 2025/5/16 |
| 2025/9/2-2026/2/13 | 第5回オンライン真空応用技術講座 | 協賛 | 2025/5/16 |
| 2025/7/2-7/3 | 小型ミュオン加速器とその応用に関する研究会 | 共催 | 2025/6/4 |
| 2025/9/1-10 | the 8th International School on Beam Dynamics and Accelerator Technology (ISBA25) | 後援 | 2025/6/4 |
| 2025/10/20-22 | 2025年日本表面真空学会学術講演会(JVSS2025) | 協賛 | 2025/6/24 |
| 2026/3/11-13 | 2025年度量子ビームサイエンスフェスタ(第17回MLFシンポジウム／第43回PFシンポジウム) | 協賛 | 2025/7/11 |
| 2025/11/26-28 | 日本中性子科学会第25回年会 | 協賛 | 2025/7/21 |
| 2025/12/10 | 真空技術部会2025年12月研究例会<br>「極高真空化に向けた非蒸発ゲッターコーティングと表面処理」 | 協賛 | 2025/9/10 |
| 2026/9/13-17 | 11th Euro-Asian Pulsed Power Conference (EAPPC 2026), the 26th International Conference on High-Power Particle Beams (BEAMS 2026) and the 21st International Symposium on Electromagnetic Launch Technology (EML 2026) (EAPPC-BEAMS-EML 2026) | 協賛 | 2025/10/14 |
| 2025/12/18-19 | 第32回FELとHigh-Power Radiation研究会 | 協賛 | 2025/10/17 |
| 2025/12/1 | 2025年度 理研シンポジウム「小型中性子技術による社会課題の解決　～小型中性子源、非破壊計測技術、シミュレーションの融合による Society 5.0 の実現にむけて～」 | 協賛 | 2025/10/21 |
| 2026/3/11 | 兵庫県立大学ニュースバルシンポジウム2026 | 協賛 | 2025/11/18 |
| 2026/3/3-4 | The 30th Hiroshima International Symposium on Synchrotron Radiation | 協賛 | 2026/1/22 |

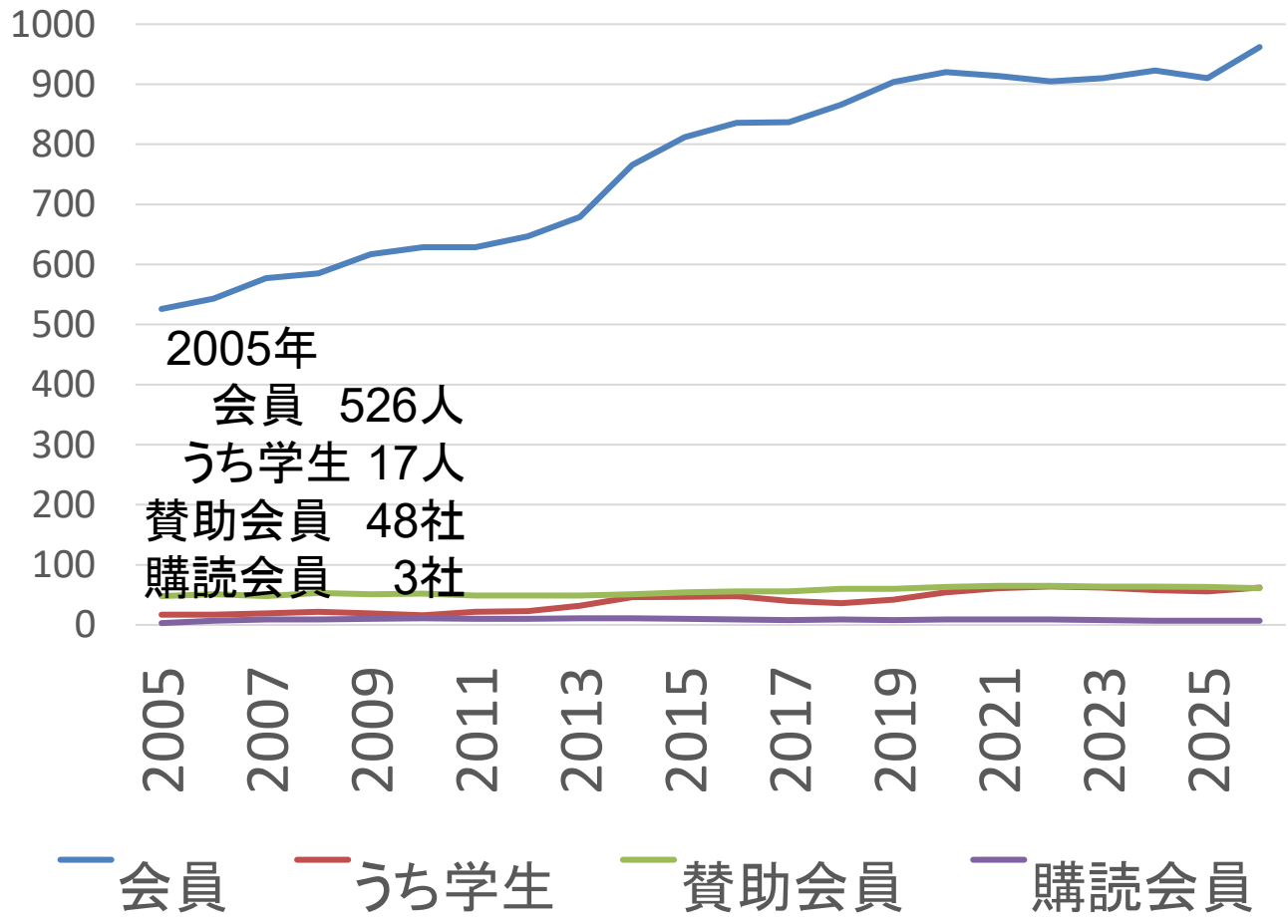
# 庶務理事報告(2/6)

## 学会で協賛・後援・共催の会議等(2/2)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2026/7/4-10 | 第20回量子マイクロプローブ国際会議<br>20th International Conference on Nuclear Microprobe Technology and Applications (ICNMTA2026) | 後援 | 2026/1/23 |
| 2026/8/18-26 | 第20回高校生・高専生のための素粒子・原子核スクール サマーチャレンジ | 後援 | 2026/1/28 |
| 2026/12/2-4 | 日本中性子科学会第26回年会 | 協賛 | 2026/5/14 |
| 2026/10/19-28 | 加速器国際スクールISBA26 | 後援 | 2026/6/19 |
| 2026/7/23-24 | 第16回核融合エネルギー連合講演会 | 協賛 | 2026/7/13 |

# 庶務理事報告(3/6)

## 会員数の推移




会員 962人
うち学生62人

賛助会員 61社

購読会員 7社

2026年6月16日

# 庶務理事報告(4/6)

## 1. 加速器中性子連携タスクフォース

インフォーマルミーティング開催(@4B 8月27日 12:05~)

近年の量子ビームの多目的利用の流れの中で、医学・産業利用、テスト計測、装置開発などの幅広い利用においては、身近に設置でき、個別にチューニングでき、時には計測対象の秘密保持も容易な中小型加速器中性子源の開発・構築についての議論が進んでいる。

中性子科学会と加速器学会の両研究者で構成する加速器中性子連携タスクフォースでは、加速器学会年会期間中にインフォーマルミーティングを開催し議論を進めている。

## 2. 外部団体への推薦(加速器学会枠のあるもの)

| | | |
|---|---|---|
| 日本学術振興会 育志賞 | 応募なし | 例年4月 |
| 東レ科学振興会 東レ科学技術賞 | 募集中 | 8月28日学会締切(2026年度) |
| 東レ科学技術研究助成 | 募集中 | 同上 |
| ヒロセ賞 | 応募なし | 7月下旬学会締切(2026年度) |
| 山田科学振興財団 研究援助 | 応募なし | 例年10月 |

# 庶務理事報告(5/6)

## 3. 国際規格対応検討委員会

インフォーマルミーティング開催(@4B 8月28日 12:20~)

近年、加速器関係の国際規格の提案が相次いでおり、加速器学会では特別委員会として「国際規格対応検討委員会の発足」を設置しました。

インフォーマルミーティングでは、陽子サイクロトロンの規格化が最終段階であること、これから規格化が動き出しそうな「検査用電子線形加速器システム」について意見交換を行う予定です。

広く加速器学会員に「国際規格化」の現状を知っていただきたいと思いますので、委員以外の方の参加も大歓迎です。

# 庶務理事報告(6/6)

## 4. 学会賞細則の変更

- (賞の種類) 第 3 条 次の賞を設ける。産学を問わず、広く対象者を求めるものとする。
- (1)奨励賞:主として若手研究者を対象とし、特に主体性、意欲が顕著と認められる、加速 器の物理および技術に関する優れた研究(博士論文を含む)に対して授与する。
- (2)技術貢献賞:加速器の建設、運転、利用の高度化、製造技術の開発等に対する寄与が顕 著と認められる技術的貢献に対して授与する。複数名(3 名程度)の共同による貢献に対 しても授与するが、その場合には個人の役割と業績が明確であることを要する。
- (3)特別功労賞:加速器の建設、運転、開発、利用、普及等において、これらを支えること に尽力し、加速器分野の発展に大きく貢献した長年の功績に対して授与する。

- (賞の種類) 第 3 条 次の賞を設ける。産学を問わず、広く対象者を求めるものとする。
- (1)奨励賞:表彰年度の4月1日の時点において45歳以下の若手研究者を対象とし(ライフイベント等による研究中断期間がある場合には、中断期間に応じて年齢制限を緩和できる)、特に主体性、意欲が顕著と認められる、加速 器の物理および技術に関する優れた研究(博士論文を含む)に対して授与する。
- (2)技術・学術貢献賞:加速器の建設、運転、利用の高度化、製造技術の開発等に対する寄与が顕 著と認められる技術的貢献に対して、また加速器科学の発展に対する寄与が顕著と認められる学術的貢献に対して授与する。複数名(3 名程度)の共同による貢献に対 しても授与するが、その場合には個人の役割と業績が明確であることを要する。
- (3)特別功労賞:加速器の建設、運転、開発、利用、普及等において、これらを支えること に尽力し、加速器分野の発展に大きく貢献した長年の功績に対して授与する。

# 行事理事報告(1/10)

## 行事委員
(※5名新任)

| | | |
|---|---|---|
| | 原田　寛之 | 行事委員長／日本原子力研究開発機構　J-PARC |
| | 紀井 俊輝 | 広報委員長／年会ウェブ担当／理化学研究所 |
| | 清道 明男 | 予稿集・論文集担当／高輝度光科学研究センター |
| | 清水 洋孝 | 会場・企業展示担当／高エネルギー加速器研究機構 |
| | 境　武志 | 会場・企業展示担当／日本大学 |
| | 大谷 将士 | プログラム担当／高エネルギー加速器研究機構 |
| ※ | 武藤 俊哉 | プログラム担当／大阪大学 産業科学研究所 |
| ※ | 菅　晃一 | プログラム担当／量子科学技術研究開発機構 |
| | 杉村 仁志 | 年会ウェブ担当／高エネルギー加速器研究機構 |
| | 田中 俊成 | プロシーディングス担当／日本大学 |
| | 山本 尚人 | プロシーディングス担当／高エネルギー加速器研究機構 |
| | 想田 光 | 学生・企業/研究機関懇談会担当／山形大学 |
| | 林崎 規託 | 第22回 実行委員長／東京科学大学 |
| | 羽倉 尚人 | 第22回 副実行委員長／東京都市大学 |
| | 坂上 和之 | 第22回 プログラム委員長／東京大学 |
| | 西森 信行 | 第23回 実行委員長／量子科学技術研究開発機構 |
| | 伊藤 正俊 | 第23回 副実行委員長／東北大学 |
| | 上島 考太 | 第23回 副実行委員長／量子科学技術研究開発機構 |
| | 安積 隆夫 | 第23回 プログラム委員長／量子科学技術研究開発機構 |
| ※ | 岩崎 能尊 | 第24回 実行委員長／九州シンクロトロン光研究センター |
| ※ | 山津 善直 | 第24回 副実行委員長／九州シンクロトロン光研究センター |
| ※ | 高林 雄一 | 第24回 プログラム委員長／九州シンクロトロン光研究センター |

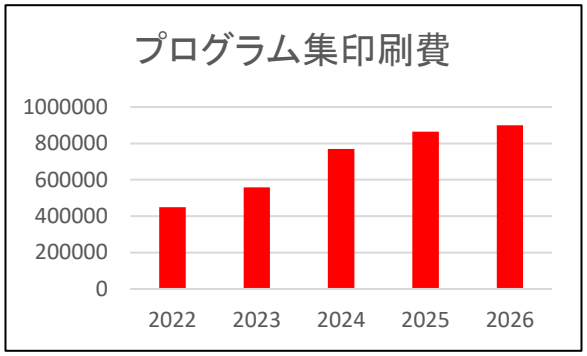
**プログラム委員会**:38名、**年会開催地検討委員会**:44名

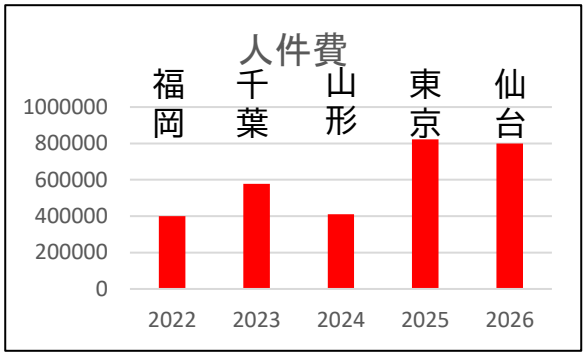
**年会行事は、多くの委員の方々によって支えられています。**

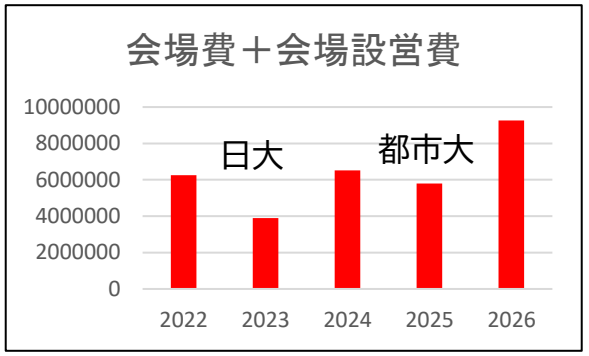
# 行事理事報告(2/10)

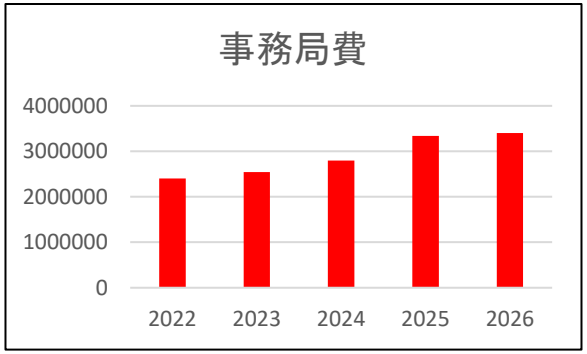
## 年会運営状況　－経費増加－

昨今の物価ならびに人件費の高騰により、年会運営の経費も増加しております。特に、プログラム集印刷費、会場・設備・設営費、人件費(労災保険含む)、事務局委託費(発表申込・プロシーディングスの新たな管理費も含む)などが増えております。




プログラム集印刷費：編集費は据置、管理費＋印刷費が増加の一途

人件費：首都圏と地方で差があり変動するものの増加傾向

会場費＋設営費：大学キャンパスでの開催以外は、増加でかつ高額

事務局費：システム管理などの委託業務量の増加に伴い、増加

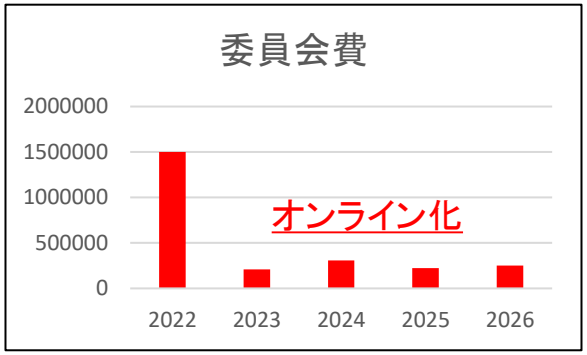
委託費単価は交渉により現時点では据置、今後上がる予定

# 行事理事報告(3/10)

## 年会運営状況　－経費削減と収入増加努力－

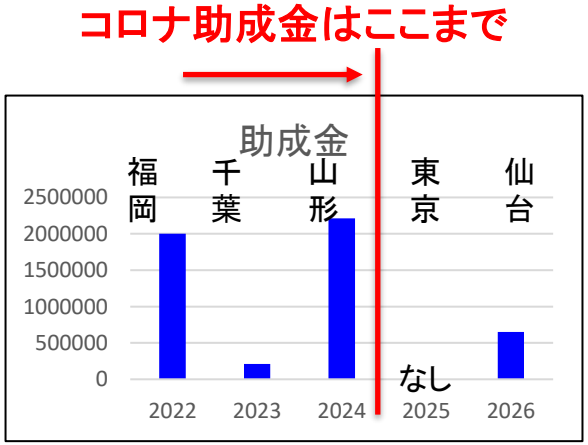
経費削減の取り組み

年会を支える全委員会(行事委員会、プログラム委員会、実行委員会、年会開催地検討委員会)のオンライン化、借用会場・設備の最適化(50～100万円程度)などの経費削減に努めてまいりました。



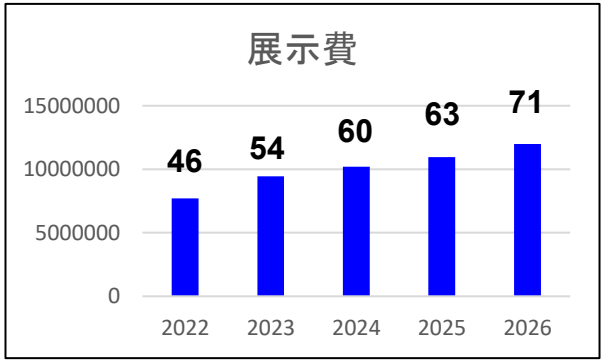

収入の減少(助成金の減額)

開催地におけるコロナ助成金などが廃止となり助成金が大幅に減額しました。




収入増加の取り組み

企業展示への出展の呼びかけによる展示数の増加など、収入の増加しております。




さらなる経費増加が見込まれる現在の状況において、年会単独で収支のバランスがとれた持続可能な年会運営には、収入を増やす必要があります。

# 行事理事報告(4/10)

## 参加費における他学会との比較(2026年1月時点)

| | 日本加速器学会（事前、当日） | | 日本物理学会（事前、当日） | | 応用物理学会（事前、当日） | | 日本原子力学会（事前、当日） | | プラ核学会（事前、当日） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般会員 | 7,000円 | 8,000円 | 8,000円 +1,000 | 9,000円 +1,000 | 12,000円 +5,000 | 18,000円 +10,000 | 15,000円 +8,000 | 20,000円 +12,000 | 12,000円 +5,000 | 12,000円 +4,000 |
| 学生会員 | 2,000円 | 2,500円 | 4,000円 +2,000 | 4,500円 +2,000 | 3,000円 +1,000 | 5,000円 +2,500 | 3,000円 +1,000 | 5,000円 +2,500 | 8,000円 +6,000 | 8,000円 +5,500 |
| 一般非会員 | 9,000円 | 10,000円 | 20,000円 +11,000 | 20,000円 +10,000 | 23,000円 +14,000 | 30,000円 +20,000 | 27,000円 +18,000 | 32,000円 +22,000 | 15,000円 +6,000 | 15,000円 +5,000 |
| 学生非会員 | 4,000円 | 4,500円 | 6,000円 +2,000 | 6,000円 +1,500 | 3,000円 -1,000 | 5,000円 +500 | 5,000円 +1,000 | 8,000円 +3,500 | 8,000円 +4,000 | 8,000円 +3,500 |

日本物理学会以外の他の学会は、ポスター発表が主であり、その設備・設営費の経費が高額となり、参加費は高めに設定されております。

単純な比較はできませんが、日本加速器学会の参加費は5,000円以上も安価な状況でした。

# 行事理事報告(5/10)

## 参加費の値上げ改定

| 種別 | 第23回年会<br>参加費(円) | 第22回年会<br>参加費(円) | 値上げ額(円) |
|---|---|---|---|
| 事前参加登録(4/22 – 7/22) | | | |
| 会員(一般) | 10,000 | 7,000 | +3,000 |
| 非会員(一般) | 12,000 | 9,000 | +3,000 |
| 会員(学生) | 3,000 | 2,000 | +1,000 |
| 会員(シニア) | 3,000 | 2,000 | +1,000 |
| 非会員(学生) | 5,000 | 4,000 | +1,000 |
| 当日参加登録(7/23 – 会期) | | | |
| 会員(一般) | 12,000 | 8,000 | +4,000 |
| 非会員(一般) | 14,000 | 10,000 | +4,000 |
| 会員(学生) | 4,000 | 2,500 | +1,500 |
| 会員(シニア) | 4,000 | 2,500 | +1,500 |
| 非会員(学生) | 6,000 | 4,500 | +1,500 |

上記のように値上げ改定させていただきました。

**今回の値上げ改定にご理解いただきますよう、お願いいたします。**

# 行事理事報告(6/10)

## 第23回 日本加速器学会年会　開催概要

- 共催:　量子科学技術研究開発機構　NanoTerasuセンター
  東北大学 先端量子ビーム科学研究センター
- 会期:　2026 年 8 月 26 日(水) ～ 8 月 28 日(金)　3日間(予定)
- 開催地:　宮城県仙台市
- 会場:　仙台国際センター　展示棟
- 特別講演:「放射光・X線自由電子レーザーを用いた構造生物学の
  医学・薬学分野への応用」、岩田想 教授(京都大学 医学部)
- 懇親会:　展示棟内　展示室3(本日夕刻から開催)
- 見学:　3GeV高輝度放射光施設ナノテラス
  東北大学先端量子ビーム科学研究センター
- 実施体制:

| | | |
|---|---|---|
| 実行委員長 | : | 西森　信行 (量子科学技術研究開発機構) |
| プログラム委員長 | : | 安積　隆夫 (量子科学技術研究開発機構) |
| 副実行委員長 | : | 伊藤　正俊 (東北大学) |
| 副実行委員長 | : | 上島　考太 (量子科学技術研究開発機構) |

# 行事理事報告(7/10)

## 第23回日本加速器学会年会　開催状況報告

**参加者**　事前: 463 名(一般 会員:324 名, 非会員:44 名, 賛助会員:17名
シニア 会員:7名, 学生 会員:32 名, 非会員:39 名) ※ 7/22 時点

**研究発表**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 合同セッション | : | 4件 (4件) | ※発表番号通知時, ()内は前回 |
| 口頭発表 | : | 48件 (48件) | |
| ポスター発表 | : | 271件 (241件) | |
| 萌芽的加速器技術の提案 | : | 2件 (0件) | |
| 施設技術報告ポスター | : | 35件 (34件) | |
| 年会賞応募 | : | 58 件 (38件) | |

**講演**　学会賞受賞講演 : 5件 (奨励賞:2、技術貢献賞:3)
企画セッション : 「半導体製造のための加速器技術
～イオン注入装置の技術と展望～」
「核融合(フュージョン)研究開発の現状と展望」

**展示・広告**　企業展示 : 67社 71小間 (賛助会員:30社、非賛助会員:37社)
スタンプラリー実施中(先着順に景品贈呈)

# 行事理事報告(8/10)

## 第24回 日本加速器学会年会　開催概要

- 共催：　九州シンクロトロン研究センター
- 会期：　2027 年 8 月 5 日(木) ～ 8 月 7 日(土)　3日間
- 開催地：　佐賀県 鳥栖市
- 会場：　鳥栖市民文化会館(仮予約中)
- 特別講演：　検討中
- 懇親会：　検討中
- 見学：　九州シンクロトロン研究センター SAGA-LS
- 実施体制：

| | | |
|---|---|---|
| 実行委員長 | ： | 岩崎　能尊（SAGA-LS） |
| プログラム委員長 | ： | 高林　雄一（SAGA-LS） |
| 副実行委員長 | ： | 山津　善直（SAGA-LS） |

# 行事理事報告(9/10)

## 第25回 日本加速器学会年会　開催概要

- 共催：　量子科学技術研究開発機構 高崎量子技術基盤研究所
  群馬大学
- 会期：　2028 年 8 月 30 日(水) ～ 9 月 1 日(金)　3日間
- 開催地：　群馬県 高崎市
- 会場：　Gメッセ群馬(仮予約中)
- 特別講演：　検討中
- 懇親会：　検討中
- 見学：　検討中
- 実施体制：

| | | |
|---|---|---|
| 実行委員長 | ： | 倉島　　俊（QST高崎） |
| プログラム委員長 | ： | 柏木　啓次（QST高崎） |
| 副実行委員長 | ： | 中尾　政夫（群馬大学） |

# 行事理事報告(10/10)

## 御礼とお願い

### 年会運営を支えてくれている多くの委員の方々に感謝

- 年会を支えてくれている多くの委員の方々(総勢:**約100名**)の働きに感謝いたします。

### 参加費の値上げ改定後の初年会へのご参加に感謝

- 参加費値上げ改定後の初年会にご参加いただき、感謝しております。持続可能な年会運営に努めてまいります。

### 企業展示にお越しいただき、ご商談・ご歓談を

- 年会収入は企業展示の出展費で支えられております。

### プロシーディングス提出期限の厳守にご協力を

- 提出期限は年会会期後(8 月 31 日(月) 24:00)です。

**皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます**

# 学会活性化理事報告(1/6)

## 学会活性化特別委員会

委員長　大塚 崇光(宇都宮大学)

委員

坂上 和之　　(東京大学)
大谷 将士　　(高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 J-PARC)
不破 康裕　　(株式会社 NovAccel 加速器開発部)
杉村 仁志　　(高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設)
鈴木 研人　　(高エネルギー加速器研究機構共通基盤研究施設)
オブザーバー:理事会メンバー

※理事会により特別委員会の継続を認めて頂き、学会の活性化に資する取り組みを進めています。常設委員会化への検討をすすめます.

※すべて45歳未満のメンバーです。

# 学会活性化理事報告(2/6)

## 若手活動支援

2023年1月より「若手活動支援」の募集をしています。(随時受付中)

※詳細は募集ページをご参照ください。

若手活動支援 募集ページ:https://www.pasj.jp/pasj_act.html

若手の皆様からの積極的な応募をお待ちしております!



# 学会活性化理事報告(3/6)

## 若手活動支援 -支援実績-

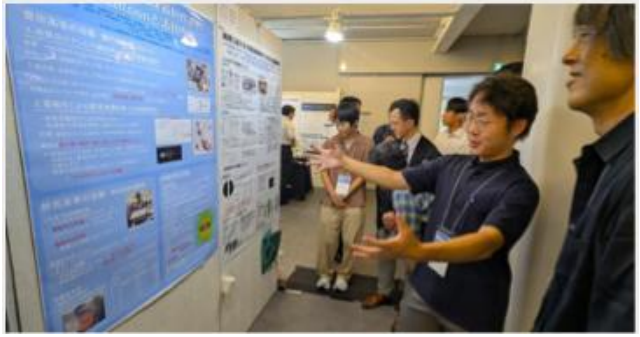
| 年度 | 代表申請者氏名 | 代表申請者所属 | 若手活動支援申請タイトル | 支援額 | 報告記事 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2025 | 長尾 和樹 | 小山高専 | 小型加速器製作を進める高専生の理研見学ならびに交流会の旅費補助 | 180,000円 | 報告 |
| 2025 | 内藤 大地 | 高エネルギー加速器研究機構 加速器第六研究系 | ビーム物理研究会・若手の会2025 | 130,000円 | 報告 |
| 2025 | Zachary J. Liptak | 広島大学 | ISBA'25年度学生支援 | 100,000円 | 報告 |
| 2025 | 阿部　優樹 | 高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設 応用超伝導加速器イノベーションセンター | 高専生による加速器研究発表支援：第22回加速器学会年会の旅費申請 | 203,000円 | 報告 |
| 2025 | 平　義隆 | 分子科学研究所 | 加速器・レーザー若手スクールの開催 | 200,000円 | 報告 |
| 2024 | 小島　完興 | 量子科学技術研究開発機構 関西光量子科学研究所 | ビーム物理研究会・若手の会2024 | 118,500円 | 報告 |
| 2024 | 長尾 和樹 | 小山高専 | 小型加速器製作を進める高専生のKEK見学ならびに交流会の旅費補助 | 250,000円 | 報告 |
| 2024 | Zachary Liptak | 広島大学先進理工学研究科 | ISBA２４年度学生支援 | 150,000円 | 報告 |
| 2024 | 岩井瑛人 | 高輝度光科学研究センター | 加速器・ビーム物理の機械学習ワークショップにおける、実地での機械学習手法ハンズオンと活用現場見学の参加支援 | 200,000円 | 報告 |
| 2024 | 井上翔一 | 長岡技術科学大学 | ビーム物理研究会･若手の会主催　第9回企画研究会「パルスパワーと加速器」の企画･運営 | 199,660円 | 報告 |
| 2023 | 足立　智 | 東北大学　サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター | 若手・学生の研究意欲向上に向けたビーム物理研究会・若手の会の研究会における旅費補助 | 140,000円 | 報告 |
| 2023 | 大塚　崇光 | 宇都宮大学大学院　地域創生科学研究科 | 小型加速器製作を進める高専生の現地交流会の旅費補助 | 175,120円 | 報告 |
| 2023 | 平　義隆 | 分子科学研究所 | 第30回FELとHigh-Power Radiation研究会 | 60,000円 | 報告 |
| 2023 | 森田　泰之 | 理化学研究所仁科加速器科学研究センター　イオン源開発チーム | 第二回加速器・ビーム物理の機械学習ワークショップ開催における旅費補助 | 160,000円 | 報告 |
| 2023 | リプタック　ザカリー ジョン | 広島大学 | ISBA'23 (International School on Beam Dynamics and Accelerator Technology '23) の旅費 | 220,000円 | 報告 |
| 2022 | 西　隆博 | 理化学研究所仁科加速器科学研究センター加速器基盤研究部リニアックチーム | 若手・学生の研究意欲向上に向けたビーム物理研究会・若手の会の研究会における旅費補助 | 200,000円 | 報告 |

報告記事は加速器学会誌に随時掲載しておりますので、ぜひご参照ください。2022年度の制度開始以来、学生の研究発表や研究会参加支援にとどまらず、スクール・ハンズオン企画、高専生の年会参加支援など、多様な活動が提案・実施されてきました。本支援を通じて、学会の活性化や次世代育成に主体的に取り組む若手会員と、それを支援する会員のネットワークが着実に形成されつつあります。今後も、会員の皆様の自由な発想による新たな取組を歓迎しております。加速器分野の未来を担う人材育成と学会活性化のため、ぜひ積極的にご応募・ご提案ください。

# 学会活性化理事報告(4/6)

## ジュニア世代への支援





第22回加速器学会年会における高専生の発表

高専生を対象とした人材育成活動は一定の成果を上げつつある。一方で、若手人口に占める高専生の割合を踏まえると、アウトリーチの対象をさらに拡大し、若手活動支援に加えてジュニア世代を対象とした活動を強化していくことが重要である。これまでは高専生の活動を若手活動支援の枠組みの中で支援してきたが、今年度からはジュニア世代を対象とした支援枠を新たに設け、活動を支援していく。また、高専生に限らず、加速器科学に興味を持つ高校生等が学会活動に触れる機会を提供するため、ジュニア会員制度の創設についても検討を進めていく。

# 学会活性化理事報告(5/6)

## 第4回学生・企業/研究機関懇談会(行事委員会と共同開催)

＜主旨＞

学生と研究機関・企業を繋ぐ機会を増やすべく、年会時に「学生・企業/研究機関懇談会」を実施する。本企画は、研究機関や企業の現場の声を学生に伝える、学生の研究開発状況を研究機関や企業の現場に伝えるなどで、相互コミュニケーションを図り、学生における就職支援による将来への不安の解消の手助け、業界における即戦力となりうる人材確保の手助けなどに繋げることを目的とする。

＜開催報告＞

今年度も年会に先立ち、第4回学生・企業／研究機関懇談会を8月21日(金)18:00～21:00に開催した。参加学生数は17名、参加企業・研究機関数は17(企業10ブース、研究機関7ブース)であった。これまでの開催で寄せられた意見を踏まえ、参加企業・研究機関によるショートプレゼンテーションの後に各ブースを訪問する方式へと変更した。参加者(学生・出展者)の双方から様々な意見が寄せられており、今後も学生・若手と企業・研究機関をつなぐ機会の提供を継続するとともに、より有意義な交流の場となるよう発展させていきたい。

# 学会活性化理事報告(6/6)

## 年会における企画セッション(第22回年会実績)

2. 高エネルギー加速器実験の現在と未来～素粒子物理分野と共に考える加速器科学の将来～

加速器科学や素粒子物理を取り巻く現在の環境や展望を確認し、将来に向けた議論をすることにより、学会における将来に向けた活動の活性化を目指します。
(高エネルギー物理学研究者会議将来計画委員会との共同企画)

次世代育成・近隣分野との連携の取組として、高エネルギー物理学研究者会議の将来計画委員会とともに、年会において企画セッション「高エネルギー加速器実験の現在と未来～素粒子物理分野と共に考える加速器科学の将来～」を提案し、実施した。 本企画を通じて、加速器科学と関連分野との連携の重要性を改めて認識する機会となった。今後も近隣分野との交流や連携強化に資する企画セッションを継続的に立案していきたいと考えている。企画内容によっては、会員の皆様にも講演やパネル討論等へのご協力をお願いすることがあるため、その際はぜひご協力いただきたい。

# 社会貢献理事報告(1/4)

社会貢献特別委員会:栗木雅夫(広島大、委員長)、岩下 芳久(阪大)、大谷 将士(KEK)、坂上和之(東大)、笹 公和(筑波大)、佐藤 潔和(東芝)、仙波 智行(日立)、想田 光(山形大)、林崎規託(東京科学大)、原田 寛之(JAEA)、増田 開(QST)、宮島司(住重)、山下了(ノバセル)、吉田 昌弘(金属技研)

- 2026年度は2回(第5回および第6回)の加速器シンポジウムを開催する。(第5回は実施済み)。加速器シンポジウムは加速器学会の目的である加速器研究を通じた社会の発展を継続的に実現するため、社会と広く交流し、加速器の社会実装を実現するための活動である。
- 第6回シンポジウムは「新しい加速器ビームの産業社会利用」をテーマに、2026年12月、あるいは2027年1月に実施予定。
- 第4回目までのシンポジウムは学会誌ですでに報告記事が掲載されている。(第5回も掲載予定)
- 学会員であれば動画も視聴可能。(一般公開はしていない)
- ぜひ、この機会に加速器の社会的価値を見直して欲しい。

# 社会貢献理事報告(2/4)

## 第3回シンポジウム
## 「加速器で守る市民生活:環境衛生・インフラ非破壊検査」

- 主催:日本加速器学会、共催:東京科学大学
- 日程:2025年7月8日(火曜日)
- 会場: 東京科学大学蔵前会館 ロイヤルブルーホール
  https://sites.google.com/view/pasj-symposium-03/
- 参加登録者62名

**講演会**

- 長谷川秀一 (東京大学大学院工学系研究科 教授)「可搬型電子線加速器X線源による非破壊検査 」
- 大石龍太郎 (オリエンタル白石常務執行役員、ランズビュー取締役)「中性子線によるインフラ構造物非破壊検査」
- 山瀬豊 (価値創造&バリデーション支援センター 代表)「電子加速器による電子線滅菌動向と今後期待される制動X線滅菌」
- 斎藤恭一 ((株)環境浄化研究所、千葉大学名誉教授)「加速器による高分子フィルム・不織布の高機能化 」

**パネルディスカッション:**講師の皆様+栗木雅夫 ( 司会)

# 社会貢献理事報告(3/4)

## 第4回加速器シンポジウム
## 「技術の社会貢献:ディープテックスタートアップ」

- 主催:日本加速器学会、共催:東京科学大学
- 日程:2025年12月7日(日曜日) 会場:鈴木章夫記念講堂(東京科学大学、お茶の水)
- https://sites.google.com/view/pasj-symposium-04/
- 参加登録者58名

**講演会**

- 村上雅人氏(株ペプチドリーム取締役、株PDRファーマ代表取締役)「加速器から患者ベッドサイドへ:放射性医薬品が創る次世代医療」
- 西村理恵子氏(株ニューフレアテクノロジー)「半導体の進化を支える電子ビームマスク描画装置の過去、現在、そして未来」
- 田中 常稔氏(株アトックス技術顧問)「医療の一翼を担う放射線治療の発展と今後の加速器応用ビジネス」
- 小畑俊裕氏 (株Synspective取締役)「スタートアップが変えた宇宙開発」

**パネルディスカッション:**講師の皆様+栗木雅夫 (司会)

# 社会貢献理事報告(4/4)

## 第5回シンポジウム「加速器とエネルギー問題」

- 主催:日本加速器学会、共催:東京科学大学
- 協賛:量子科学技術研究開発機構、日本原子力学会、高エネルギー加速器科学研究奨励会、プラズマ・核融合学会、日本原子力研究開発機構
- 日程:2026年7月6日(月)
- 場所:東京科学大学、蔵前会館、ロイヤルブルーホール+ZOOMによる同時配信
- 参加者(登録者):60名(現地)、192名(リモート)

**講演の部**

- 明午伸一郎氏(JAEA)「加速器駆動システムADSの現状と課題」
- 榊泰直氏(QST)「極短パルス陽子で探る原子の挙動と炉材損傷の理解(仮)」
- 春日井敦氏(QST)「核融合実現への加速器技術の応用:材料照射用中性子源および中性粒子ビーム加熱」
- 鬼柳善明氏(北大名誉教授)「加速器中性子源イメージング手法を用いたエネルギー関連研究」

**パネル討論の部(講演者に加えて、下記のものが参加)**

- 上坂充(内閣府原子力委員会委員長)、田村文彦(日本加速器学会会長)、栗木雅夫(日本加速器学会社会貢献担当理事、司会)

# 会計理事報告(1/9)

- 担当理事
  - 池田仁美 (KEK、会計)
- 監事
  - 羽島良一 (QST)
  - 仙波智行 (日立)

- 法人化されて2年目の会計年度となった。
- 年会は東京開催のため助成金が得られなかったにも関わらず、関係者の努力により収支をほぼ均衡させることができ、全体収支は100万円超の黒字となり、繰越金を増加させることができた。

# 会計理事報告(2/9)

## 2025年度日本加速器学会決算報告

(2025年4月1日～2026年3月31日)

収入の部　　(単位:円)

| 目 | 細　目 | 2024年度実績 | 2025年度予算 | 2025年度実績 |
|---|---|---|---|---|
| 会費収入 | | 11,223,600 | 11,223,600 | 11,267,600 |
| 正会員 | 8,000円 | 6,912,000 | 6,912,000 | 6,965,000 |
| シニア会員 | 3,000円 | | | 48,000 |
| 学生会員 | 3,000円 | 162,000 | 162,000 | 177,000 |
| 賛助会員 | 12,000円 | 4,056,000 | 4,056,000 | 3,996,000 |
| 購読会員 | 12,000円 | 84,000 | 84,000 | 72,000 |
| 書店経由購読会員 | 9,600円 | 9,600 | 9,600 | 9,600 |
| 事業収入 | | 20,678,367 | 18,333,117 | 17,737,322 |
| 会誌販売収入 | 学会誌売上 | 0 | 0 | 44,000 |
| 著者負担金収入 | 会誌別刷収入 | 898,117 | 898,117 | 427,922 |
| 会誌広告収入 | | 1,522,400 | 1,000,000 | 1,216,600 |
| 学術的会合収入 | 年会(現地開催) | 18,257,850 | 16,435,000 | 16,048,800 |
| 雑収入 | | 36,172 | 8,171 | 32,214 |
| 受取利息 | | 8,171 | 8,171 | 32,214 |
| 還付金 | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 28,001 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 0 |
| 収入合計 | | 31,938,139 | 29,564,888 | 29,037,136 |

# 会計理事報告(3/9)

支出の部

| 目 | 細　目 | 2024年度実績 | 2025年度予算 | 2025年度実績 |
|---|---|---|---|---|
| 学会誌出版費 | | 6,739,051 | 6,394,780 | 6,433,774 |
| 会誌発行費 | 印刷・原稿管理・校正・編集・発送 | 6,344,271 | 6,000,000 | 5,749,814 |
| 別刷印刷費 | 別刷り印刷・発送 | 130,230 | 130,230 | 208,210 |
| J-STAGE登載費 | | 264,550 | 264,550 | 475,750 |
| 運営費 | | 16,201,750 | 17,144,670 | 16,284,789 |
| 学術的会合支出 | 年会開催費(現地開催) | 15,649,020 | 16,435,000 | 16,069,232 |
| 学会賞費 | 賞状用紙等 | 10,800 | 10,800 | 9,575 |
| 会場費 | 会議室使用料 | 98,870 | 98,870 | 0 |
| 旅費 | 各委員会旅費 | 443,060 | 600,000 | 205,982 |
| 事務業務費 | | 4,391,402 | 4,218,000 | 4,302,265 |
| 基本業務委託費 | 国際文献社基本料金 | 3,776,962 | 3,547,810 | 3,627,376 |
| | 法人税・消費税申告(国際文献社) | 110,000 | 101,000 | 110,000 |
| 選挙費 | 会長・評議員選挙 | 0 | 64,750 | 85,525 |
| その他管理費 | (予算案では以下の内訳を一括して評価) | 504,440 | 504,440 | 479,364 |
| | | 以下、内訳 | | |
| サーバー関連 | サーバー使用料・ドメイン使用料(HP・メール) | 76,120 | | 88,000 |
| 封筒印刷費 | 学会誌封筒代 | 123,750 | | 110,000 |
| 備品費 | | 0 | | 0 |
| 消耗品費 | | 0 | | 0 |
| 通信費 | 宅配便等 | 110,556 | | 94,053 |
| 事務局旅費 | 会議・打ち合わせ出席時の旅費実費 | 0 | | 0 |
| 振込手数料 | 銀行振込、年会会期以外のカード決済、受取人払時の手数料 | 194,014 | | 187,311 |
| 事務用品費 | | 0 | | 0 |
| 他団体発行賞への学会推薦対応 | | 0 | | 0 |
| その他 | | 7,243,073 | 2,170,980 | 978,837 |
| 租税公課 | 法人税、消費税 | 70,000 | 100,300 | 100,300 |
| 男女共同参画学協会連 | 分担金、シンポジウム参加費 | 37,680 | 37,680 | 17,000 |
| 学会活性化(若手支援等) | | 908,160 | 1,000,000 | 713,000 |
| 年会特別講演撮影 | 撮影、編集、公開 | 0 | 0 | 0 |
| オーラルヒストリー編纂 | 聞き取り書き起こし、出張費 | 0 | 0 | 0 |
| J-STAGE登載費 | | 367,840 | 0 | 0 |
| 英文校閲 | 今後実施予定無、削除予定 | 0 | 0 | 0 |
| 法人化初期費用 | | 550,000 | 0 | 0 |
| 法人化シンポジウム開催 | 会場、システム、撮影編集、講師 | 1,822,393 | 633,000 | 148,537 |
| Webシステム改修費 | 年会発表申込 | 3,025,000 | 400,000 | 0 |
| その他 | | 462,000 | 0 | 0 |
| 支出合計 | | 34,575,276 | 29,928,430 | 27,999,665 |

# 会計理事報告(4/9)

収支差額・剰余金

| 目 | 細　目 | 2024年度実績 | 2025年度予算 | 2025年度実績 |
|---|---|---|---|---|
| 収支差額 | | -2,637,137 | -363,542 | 1,037,471 |
| 前期繰越剰余金 | | 18,614,361 | 15,977,224 | 15,977,224 |
| 次期繰越剰余金 | | 15,977,224 | 15,613,682 | 17,014,695 |

○収入
- 前年度に向上した会費納入率を今期も高く維持し、ほぼ予算どおりの会費納入を得ることができた。未納者については引き続き理事等から声掛けしている。
- 厳しさが増している学会誌の広告についてもほぼ予算どおりの収入となった。

○支出
- 学会誌について最近費用が増大していたが、今期は関係者の努力により支出を抑えることができた。
- 年会については施設見学を省いたこともあり、バランスの取れた収支となった。
- 事務費関連では、前年度運営を外注していた加速器シンポジウムについて、関係者が運営することで費用を抑えることに成功している。

# 会計理事報告(5/9)

## 財産目録

2026年 3月31日現在

一般社団法人　日本加速器学会　　（単位：円）

| 貸借対照表科目 | | 場所・物量等 | 使用目的等 | 金額 |
|---|---|---|---|---|
| (流動資産) | | | | |
| | 預金 | 普通預金 | | 25,350,786 |
| | | 三菱UFJ銀行(任意団体名義) | 運転資金として | 3,392,817 |
| | | 三菱UFJ銀行(一般社団法人名義) | 〃 | 21,162,475 |
| | | みずほ銀行(年会用口座) | 〃 | 795,494 |
| | | 郵便振替 | | 1,733,533 |
| | | 任意団体口座 | 運転資金として | 284,199 |
| | | 一般社団口座 | 〃 | 1,449,334 |
| | 未収金 | | | 119,328 |
| | | クレジット会社 | 8,000円×6名 | 48,000 |
| | | 学会誌「加速器」Vol. 22 No. 4 | 広告料 | 92,400 |
| | | 学会誌「加速器」Vol. 22 No. 2 | 著者負担金 | 26,928 |
| 流動資産合計 | | | | 27,251,647 |
| 資産合計 | | | | 27,251,647 |
| (流動負債) | | | | |
| | 未払金 | | | 2,199,436 |
| | | ㈱国際文献社 | 業務委託費1-3月分 | 1,074,735 |
| | | 〃 | 〃　第22回年会(PASJ2025)残金 | 1,124,701 |
| | 前受会費 | | 翌事業年度以降年会費 | 8,037,516 |
| | | 正会員 | 2026年度　8,000円×755名+7,516円×1名 | 6,047,516 |
| | | 学生会員 | 2026年度　3,000円×35名 | 105,000 |
| | | 賛助会員 | 2026年度　60,000円×30口 | 1,800,000 |
| | | シニア会員 | 2026年度　3,000円×26名<br>2027年度　3,000円×1名+2,000円×1名<br>2028年度　2,000円×1名 | 85,000 |
| 流動負債合計 | | | | 10,236,952 |
| 負債合計 | | | | 10,236,952 |
| 正味財産 | | | | 17,014,695 |

# 会計理事報告(6/9)

## 監 査 報 告

2026 年 5 月 25 日

一般社団法人日本加速器学会
会長　田村　文彦　殿

一般社団法人日本加速器学会

監事　羽島良一

監事　仙波智行

監事は、2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの第 2 期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1．監査の方法及びその内容

監事は、理事等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2．監査の結果

(1)　事業報告等の監査結果

一　事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2)　財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

# 会計理事報告(7/9)

## 2026年度日本加速器学会予算案
(2026年4月1日～2027年3月31日)

収入の部　　(単位:円)

| 科　目 | 細　目 | 2026年度予算(A) | 2025年度実績(B) | 増減高(A-B) |
|---|---|---|---|---|
| 会費収入 | | 10,923,600 | 11,267,600 | -344,000 |
| 正会員 | 837名×8,000円 | 6,696,000 | 6,965,000 | -269,000 |
| シニア会員 | 30名×3,000円 | 90,000 | 48,000 | 42,000 |
| 学生会員 | 56名×3,000円 | 168,000 | 177,000 | -9,000 |
| 賛助会員 | 323口×12,000円 | 3,876,000 | 3,996,000 | -120,000 |
| 購読会員 | 7口×12,000円 | 84,000 | 72,000 | 12,000 |
| 書店経由購読会員 | 1口×9,600円 | 9,600 | 9,600 | 0 |
| 事業収入 | | 21,365,000 | 17,737,322 | 3,627,678 |
| 会誌販売収入 | 学会誌売上 | 0 | 44,000 | -44,000 |
| 著者負担金収入 | 会誌別刷収入、「加速器」Vol.23,No.1～No.4 | 800,000 | 427,922 | 372,078 |
| 会誌広告収入 | 「加速器」Vol.22,No.1～No.4 | 1,000,000 | 1,216,600 | -216,600 |
| 学術的会合収入 | 第23回年会（現地開催） | 19,565,000 | 16,048,800 | 3,516,200 |
| 雑収入 | | 48,321 | 32,214 | 16,107 |
| 受取利息 | | 48,321 | 32,214 | 16,107 |
| 還付金 | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 0 |
| 収入合計 | | 32,336,921 | 29,037,136 | 3,299,785 |

# 会計理事報告(8/9)

支出の部

| 科　目 | 細　目 | 2026年度予算(A) | 2025年度実績(B) | 増減高(A-B) |
|---|---|---|---|---|
| 学会誌出版費 | | 6,500,000 | 6,433,774 | 66,226 |
| 会誌発行費 | 印刷・原稿管理・校正・編集・発送 | 5,600,000 | 5,749,814 | -149,814 |
| 別刷印刷費 | 別刷り印刷・発送 | 400,000 | 208,210 | 191,790 |
| J-STAGE登載費 | | 500,000 | 475,750 | 24,250 |
| 運営費 | | 20,053,583 | 16,284,789 | 3,768,794 |
| 学術的会合支出 | 第23回年会開催費(現地開催) | 19,838,026 | 16,069,232 | 3,768,794 |
| 学会賞費 | 賞状用紙等 | 9,575 | 9,575 | 0 |
| 会場費 | 会議室使用料 | 0 | 0 | 0 |
| 旅費 | 各委員会旅費 | 205,982 | 205,982 | 0 |
| 事務業務費 | | 4,332,034 | 4,302,265 | 29,769 |
| 基本業務委託費 | 国際文献社基本料金 | 3,663,550 | 3,627,376 | 36,174 |
| | 法人税・消費税申告(国際文献社) | 101,000 | 110,000 | -9,000 |
| 選挙費 | 会長・評議員選挙 | 0 | 85,525 | -85,525 |
| その他管理費 | (予算案では以下の内訳を一括して評価) | 567,484 | 479,364 | 88,120 |
| | | | 以下、内訳 | |
| サーバー関連 | サーバー使用料・ドメイン使用料(HP・メール) | 176,120 | 88,000 | 88,120 |
| 封筒印刷費 | 学会誌封筒代 | | 110,000 | -110,000 |
| 備品費 | | | 0 | 0 |
| 消耗品費 | | | 0 | 0 |
| 通信費 | 宅配便等 | | 94,053 | -94,053 |
| 事務局旅費 | 会議・打ち合わせ出席時の旅費実費 | | 0 | 0 |
| 振込手数料 | 銀行振込、年会会期以外のカード決済、受取人払時の手数料 | | 187,311 | -187,311 |
| 事務用品費 | | | 0 | 0 |
| 他団体発行賞への学会推薦対応 | | | 0 | 0 |
| その他 | | 1,465,837 | 978,837 | 487,000 |
| 租税公課 | 法人税、消費税 | 100,300 | 100,300 | 0 |
| 男女共同参画学協会連 | 第24期分担金、シンポジウム参加費 | 17,000 | 17,000 | 0 |
| 学会活性化(若手支援等) | | 1,200,000 | 713,000 | 487,000 |
| 年会特別講演撮影 | 撮影、編集、公開 | 0 | 0 | 0 |
| オーラルヒストリー編纂 | 聞き取り書き起こし、出張費 | 0 | 0 | 0 |
| J-STAGE登載費 | 論文以外過去分2023年度繰越、2024年度終了 | 0 | 0 | 0 |
| 英文校閲 | 今後実施予定無、削除予定 | 0 | 0 | 0 |
| 法人化初期費用 | (2023年度実施2024年度支払い) | 0 | 0 | 0 |
| 法人化シンポジウム開催 | 会場、システム、撮影編集、講師 | 148,537 | 148,537 | 0 |
| Webシステム改修費 | 年会発表申込 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 0 |
| 支出合計 | | 32,351,454 | 27,999,665 | 4,351,789 |

# 会計理事報告(9/9)

収支差額・剰余金

| 科　目 | 細　目 | 2026年度予算(A) | 2025年度実績(B) | 増減高(A-B) |
|---|---|---|---|---|
| 収支差額 | | -14,533 | 1,037,471 | -1,052,004 |
| 前期繰越剰余金 | | 17,014,695 | 15,977,224 | 1,037,471 |
| 次期繰越剰余金 | | 17,000,162 | 17,014,695 | -14,533 |

○監査
　2025年度の決算の監査結果としては正確かつ適正であると認めていただいた。
○その他
- 一昨年の検討課題の内のクレジットカードの処理費用について、前年度に利用する仕組みを変更することによって、大幅に圧縮合理化することができたが、処理が属人化されてしまったことが指摘されている。この件については今年度の検討課題である。
- 任意団体名義の口座がまだ残っているので、今年度閉じる予定。